

指名打者マニュアル (**(P/DH)**大谷編)

2026年度より高校野球でDH制が導入され
すべての野球（社会人・大学・高校・軟式）で
実施されることとなった。改めてDH制について
2026年公認野球規則に基づきまとめることとした。

石川県野球協会 審判部

指名打者 ((P/DH)大谷編) == 目次 ==

番号	内 容	頁
1、	<u>高校野球のDH制導入目的</u>	3
2、	<u>交代により「指名打者」が消滅すること</u>	3
3、	<u>指名打者が消滅する五つのケース</u>	4
4、	<u>制度を理解し、スムーズな運用を</u>	5
5、	<u>5.11指名打者(b)【大谷指名打者P/DH】フロー</u>	6
6、	<u>2026公認野球規則 5.11 指名打者 (大谷ルール)</u>	7
事例 1	<u>投手に代わり救援投手が登板【DH継続】</u>	9
事例 2	<u>DHの代打者が打席に入った【DH継続】</u>	10
事例 3	<u>投手に代わり救援投手が登板、そのままDH【変更不可】</u>	11
事例 4	<u>投手が外野守備、代わって救援投手が登板【DH消滅】</u>	12
事例 5	<u>(P/DH)DHのみ退き代打、代打がそのまま守備【DH消滅】</u>	13
事例 6	<u>(P/DH)投手のみ退き、救援投手。DHのみが守備につく【DH消滅】</u>	14
事例 7	<u>例題6でレフトについた元投手が再び、投手登板【変更不可】</u>	15
事例 8	<u>(P/DH)指名打者を解除、指名打者の打順で投手継続【変更不可】</u>	16
事例 9	<u>(P/DH) 1回表投手乱調、投手と右翼手を交代【DH消滅】</u>	17
事例 1 0	<u>控え投手に交代、DH消滅させ打順も受け継ぐ【DH消滅】</u>	18
事例 1 1	<u>その他いろいろなケース(一般編&大谷編)</u>	19

1, 高校野球のDH制導入目的 (<https://www.jhbf.or.jp/topics/detail/571>)

- 1.部員数が減少する中、部員の新たな活躍の機会を創出する
- 2.投手の健康（特に熱中症）対策の推進
- 3.大学を含む学生野球全体としての流れ

これまで走塁や守備が不得手などの理由で出場機会に恵まれなかった選手が、指名打者として試合に出場し、練習を重ねてきた得意の打撃を生かせる機会が生まれるのも重要なポイントです。

2, 交代により「指名打者」が消滅することも

これまで指名打者ルールを採用してきたMLBや日本のプロ野球、社会人野球などでは、投手と野手の分業が進んでおり、投手が他の守備位置についたり、野手が投手になったりする場面はほとんど想定されていません。選手の層も厚く、打撃専門選手の起用することで、投手の負担軽減につながっています。

一方、高校野球では、チーム事情はさまざまです。複数のポジションを担う選手も少なくなく、プロ野球などとは状況が大きく異なります。そのため、交代により指名打者の役割が消滅するケースが出てくることが予想されます。制度導入当初にまず理解しておきたいのは、「指名打者が消滅する五つのケース」です。

3, 指名打者が消滅する五つのケース (<https://www.jhbf.or.jp/topics/detail/571>)

いわゆる「大谷ルール」と呼ばれる規則5.11(b)は、指名打者ルールにおいて、投打ともにすぐれている選手を最大限活用できるよう整備されました。

従来の指名打者ルールでは、投手が打席に入る場合、指名打者は放棄され、試合中に投手を交代すれば、打順の入れ替えも必要になるなど、戦術上の制約がありました。しかし、規則5.11(b)が追加されたことにより、先発投手が打席にも入る場合、「投手」と「指名打者」という別々の2人として考えることができるようになりました。つまり、投手として降板した後も、「指名打者」として出場し続けることができます。

高校野球では、エースが主力打者というチームも多く、プロ野球以上にこの規則5.11(b)が適用されるでしょう。このルールについても、交代にともなって様々なケースが想定されます。

指名打者の消滅や、規則5.11(b)に関連するケースについて、[当サイト](#)でも詳しく説明していますので、選手や指導者のみなさんはぜひ確認して、理解を深めてください。

1.	投手が他の守備についた場合	5.11(a)(8)
2.	代打者または代走者が試合に出て、そのまま投手になった場合	5.11(a)(9)
3.	投手が指名打者の代打者 または代走者になった場合	5.11(a)(10)
4.	指名打者が守備についた場合	5.11(a)(12)
5.	他の守備位置についていた プレーヤーが投手になった場合	5.11(a)(14)

4、制度を理解し、スムーズな運用を (<https://www.jhbf.or.jp/topics/detail/571>)

交代などベンチの意向は、選手が球審に伝えます。教育的な観点から見れば、コミュニケーションの重要な一面となります。

球審は選手交代の通告を受けると、場内放送の担当者にその内容を伝えます。その際、

- 1) 退く選手を確認
 - 2) その後新たにに入る選手や守備位置の変更
- という順序で整理して伝えることを心がけています。

プロ野球の球場で長年、放送業務に携わってきた方によると、「**指名打者が関係する交代は、最初に『DHが消滅します』など前置きがあると非常に助かる**」ということでした。

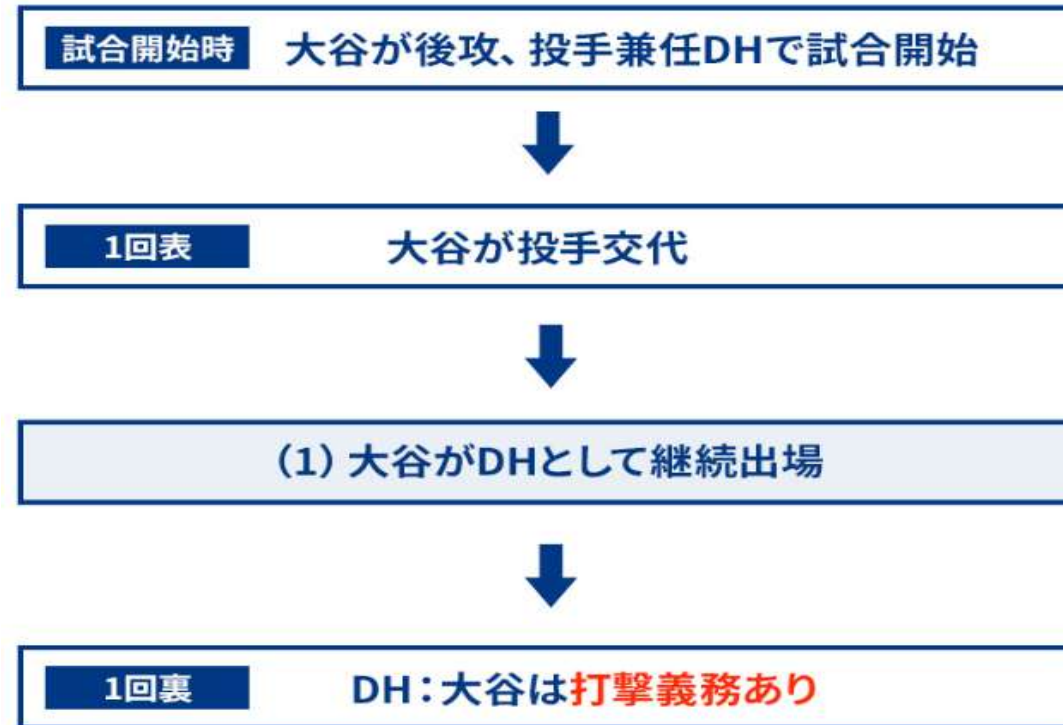
選手が審判に伝える場面や、指導者が選手に指示を出す場面でも同様に、『**DHが消滅します**』という一言が、誤った運用を防ぐには有効です。こうした積み重ねこそ、高校野球における教育的価値を体現する場面ではないでしょうか。

指名打者ルールの導入は、高校野球の戦術面だけでなく、教育や選手保護の観点からも大きな意味を持ちます。制度を正しく理解し、落ち着いて運用することが、試合の円滑な進行と選手の安全につながります。

当初は不慣れによって時間がかかることも予想されますが、現場での経験を積み重ねながら、間違いのない運用に向けて、関係者全員で取り組んでいきましょう。

5.11指名打者 (b) 【大谷ルール 指名打者P/DH】に基づくフロー

(1) 大谷がDHとして試合に出場し続けるケース



(2) 相手チームの先発投手に対して、**少なくとも1度は、打撃を完了しなければ交代できない。**
ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はない。

2026公認野球規則 5.11 指名打者 (大谷ルール)

(b) 〈6.10a〉を次のように改める。

チームは投手に代わる打者を指名する義務はない。しかしながら、先発投手自身が打つ場合には、本条 (a) 項により、**別々の2人として考えることができる**。監督は自分のチームの打順表に10人のプレーヤーを記載し、このプレーヤーにおいて、**一つは先発投手、もう一つは指名打者として2度、同じ名前を記載することになる**。

もしこのプレーヤーが**投手を退いたとしても、指名打者としては出場し続けることはできるが、再び投手として出場することはできない**。

また、このプレーヤーが**指名打者を退けば、投手として出場し続けることはできるが、再び打者として打席に立つことはできない**。

このプレーヤーが**投手と指名打者の両方を同時に退くことになった場合**、それに置き換わる**投手と指名打者両方の役割を満たす他のプレーヤーに代わることはできない**。チームにおいて、先発投手自身が指名打者としても打つことができる本規定を採用するかは、最初の打順表で記載するときのみできる。

本条 (a) 項にもかかわらず、その投手が指名打者として打つかまたは走者になったとしても、チームに対する指名打者の役割は消滅しない。また、その指名打者が投手の役割を引き受けた場合においても、その役割は消滅しない。しかし、**兼務するプレーヤーが投手として降板し、投手以外の守備位置に移った場合には**、野手となって打者として出場することはできるが、それ以後**指名打者の役割は消滅し再び投手として出場できない**。逆に**兼務するプレーヤーが指名打者を退き、投手専任になった場合は**引き継いだ指名打者の役割を消滅させて**再び打者として出場できない**。【野球審判員マニュアル第5版 試合の進行53】

【5.11注】 我が国では、指名打者ルールについては、所属する団体の規定に従う。

規則 5.11(b)では

『**先発投手自身が打つ場合には、5.11(a)により、別々の2人として考えることができる**』となっている。

この選手プレーヤーがそれぞれの役割を果たさなければならない状況を整理すると、

①**投手である役割を果たさなければならない状況（自チームが守備中である場合）** →

『**先発投手**』としての義務（5.10(f)）を完了する。

②**指名打者である役割を果たさなければならない状況（自チームが攻撃中である場合）** →

『**指名打者**』としての義務（5.11(a)(2)）を完了する。となる。

一般的な指名打者ルール（5.11(a)：先発投手と指名打者が異なるプレーヤー）を採用したケースにおいて考えた場合、『1回表から投手が乱調で抑えることができずに降板せざるを得なく、控え選手も少ないことから、その投手がそのまま、他の守備位置に移動することは認められる。

（この時点で指名打者を消滅させることは可能であり、指名打者として出場する予定であったプレーヤーが自動的に退く形になったとしても問題はない）ので、

① 単に**投手としては試合から退くことは問題なく（第1打者への打撃が完了）、引き続き、指名打者として試合に出場することは可能である。**ただし、この場合は5.11(a)(2)の通り、まだ『**指名打者**』としての役割は残っていることから、『**自らの第1打席を打撃完了する義務**』は残ったままとなる。

② **先発投手としての義務（第1打者への打撃が完了）が果たされていれば、一般的な指名打者ルール（先発投手と指名打者が異なるプレーヤー）での対応と同様、投手と指名打者を兼ねた先発投手であっても、他の守備位置に移動することは問題ない。**（ただし、5.11(a)(8)のとおり**指名打者の役割は消滅**する）

※言うまでもないが、5.10(f)および5.11(a)(2)における先発投手および指名打者それぞれの『義務』を果たす前であっても、当該プレーヤーが負傷または病気のために出場が不可能と球審が認めた場合、交代することは認められている。

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題1：投手大谷に代わり救援投手Xが登板した

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷 ↓ 投手 X	X	Y	Z

P大谷は試合から退いたが、DHとしてはそのまま出場できる（5.11(b)）

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題2：DH大谷の代打者としてYが打席に入った

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷 ↓ 代打 Y	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

DH大谷は試合から退いたが、投手としてはそのまま出場できる（5.11(b)）

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題3：投手大谷に代わり救援投手Xが登板した時、監督がDHもXにすると申し出た

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷 ↓ 救援 X ↓ 大谷	D	E	F	G	H	大谷 ↓ 救援 X	X	Y	Z

できない。先発投手自身が指名打者としても打つことができる本規則を採用することは、最初の打順表で記載するときのみできる。5.11(b)

従って、DH大谷は継続となり、必要であればDH大谷の打撃が回ってきたときにX以外の代打者を送ることになる。

※DH大谷に代わって**救援投手Xを打席に立たせることはできるが**、この場合、**指名打者の役割は消滅し**（5.11(10)、それ以後の選手の交代や打撃順の指名については、指名打者ルールを使用していないときと同じように進めていくことになる。

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題4：投手兼DH大谷がレフトの守備につき、レフトのCに代わって救援投手Xが登板した。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手 → 1 投手X	DH→ 7 左翼	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C ↓ X	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

【指名打者消滅】 投手大谷はDH大谷でもあるため、指名打者は消滅し、大谷はもともとの打順を継続し、救援投手XはレフトCの打順を引継ぐ。（5.11(a)(5)(8)）

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題5：投手兼DH大谷がDHのみ退き、代打者としてYが打席に入った。攻守交代となり、Yがそのまま守備につくことはできるか。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH→ 代打Y	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷 ↓ Y	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

【指名打者消滅】 DH大谷の代打Yは守備につくことはできるが、投手大谷は試合から退かなければならない。

※**指名打者が他の守備につくことは、指名打者の役割を消滅させなければならず**、大谷は必然的に打順表へ入る必要となってしまう。しかし、**大谷はすでに指名打者を退いていることから、再び打者として打席に立つことはできない。**（5.11(b)このことから、代打Yを守備につかせるのであれば、大谷は試合から退かなければならない。

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題6：投手兼DH大谷がイニングの途中で投手のみ退き、救援投手としてXが登板した。攻守交代となり、DHのみとなった大谷が投手以外の守備位置（例：レフト）につくことはできるか。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手 ↓ 1 投手	DH→ 7レフト	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C ↓ X	大谷	D	E	F	G	H	大谷 ↓ X	X	Y	Z

【指名打者消滅】 できる。救援投手Xが元の3番レフトの打順に入る。

例題7：例題6でレフトの守備位置について大谷が再び、投手として登板できるか。

例題6：投手兼DH大谷がイニングの途中で投手のみ退き、救援投手としてXが登板した。攻守交代となり、DHのみとなった大谷が投手以外の守備位置（例：レフト）につくことはできるか。

【指名打者消滅】できる。 救援投手Xが元の3番レフトの打順に入る。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手 ↓ 1 投手	DH→ 7レフト	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C ↓ X	大谷	D	E	F	G	H	大谷 ↓ X	X	Y	Z

できない。 先発投手であった大谷が、すでに投手を退いているので、**再び投手として出場することはできない。**

例題8：攻守交代時に監督から、投手と指名打者を兼ねる大谷が指名打者を解除させて、そのまま指名打者の打順で投手としても継続させたいと球審に申し出があった。この申し出は認められるか。（打順表には守備位置のところはDHではなく「1（投手）」とする。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH→ 1 投手	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

認められない。大谷が先発投手として投げ続けている場合、指名打者を解除することはできない。（大谷が形式上、**指名打者を退いたことになり、再び打者として打席に立つことはできない**）（5.11(b)）

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題9：1回表で先発登板している大谷投手（指名打者を兼務）が乱調のため、守備側の監督が球審に右翼手の守備についていたDを投手に大谷を右翼手に移動させたいと通告があった。この交代は認められるか。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH ↓ 9右翼	9 右翼手 ↓ 1投手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷 退く	X	Y	Z

【指名打者消滅】認められる。 この交代によって**指名打者が消滅**することとなり、例えば、この1回表の途中で右翼手についていたDが試合から退くことも可能である。**大谷は再び『投手』に戻ることはできない**1回表の守備中に、**指名打者を消滅している**ので大谷が試合から退いても**問題ない**。

先発オーダー表（P/DH）

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	大谷	D	E	F	G	H	大谷	X	Y	Z

例題10：1回表で先発登板している大谷投手（指名打者を兼務）が乱調のため、守備側の監督は球審に投手交代（大谷はベンチに退いて、控え選手であるXの登板）の申し出があり、その際、指名打者を消滅させて、Xが4番の打順も受け継ぐ旨の通告があった。この交代は認められるか。<X>はDHおよび投手双方として出場できないため、指名打者は消滅となる。

1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	P	控1	控2	控3
6 遊撃手	4 二塁手	7 左翼手	DH ↓ 1投手	9 右翼手	5 三塁手	3 一塁手	8 中堅手	2 捕手	1 投手	救援 投手	代打	
A	B	C	X	D	E	F	G	H	大谷 退く	X	Y	Z

【指名打者消滅】認められる。しかし、指名打者を消滅せずに、Xがそのまま4番の指名打者としても兼務することはできない。**指名打者を消滅させたので、大谷は当然ながら試合に出場できない**

ケース① 複数選手の交代があるとき

審判伝達手順

監督と選手交代確認
 ※電光掲示がある場合は打順表（紙）と電光掲示両方で確認する。

- 1) DHがセンター **【指名打者消滅】**
- 2) センターをライトへ
- 3) ライトに変わってレフトに吉田（背番号10）
- 4) 監督が投手加藤の打順を「6番」か「8番」を指定
- 5) 指定しなかったら投手加藤は「8番」でよいですね。
- 6) 最終確認
 DH高橋がセンタ、センター佐藤がライト、ライトに変わって「6番」レフト吉田（背番号10）、「8番」ピッチャー加藤

本部アナウンスへ

- 1) DH消滅します
- 2) DHがセンタ、センターがライト、ライトに変わって「6番」レフト吉田（背番号10）、「8番」ピッチャー加藤

Ump最終確認
 （電光掲示がある場合）
 電光掲示と打順表で確認
 （電光掲示がない場合）
 打順表（位置）が1から9の9人になっているか最終確認

オーダー表

打順	位置	氏名	背番号
1	8 → 9	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH → 8	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺 → 吉田	7 → 10
7	6	山本	6
8	9 → 1	中村 → 加藤	9 → 1
9	2	小林	2
	P	加藤	1
控	7へ	吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控		大谷	17

ケース② 投手が打撃するかまたは走者になる場合

審判伝達手順

監督と選手交代確認

※電光掲示がある場合は打順表（紙）と電光掲示両方で確認する。

- 1) DHに代わって代打、投手加藤 **【指名打者消滅】**

試合に出場中の投手が指名打者の代打または代走	○可能
試合に出場中の投手が指名打者 以外 の代打または代走	×不可

- 3) 6番に代わって投手加藤が代打
- 4) 投手は**DH以外の代打は不可です**

本部アナウンスへ

- 1) DH消滅します
- 2) DHに代わって代打、投手加藤

Ump最終確認

(電光掲示がある場合)
電光掲示と打順表で確認
(電光掲示がない場合)
打順表（位置）が1から9の9人になっているか最終確認

オーダー表

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH → 1	高橋 → 加藤	1 2 → 1
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	加藤	1
控		吉田	1 0
控		山田	1 1
控		佐々木	1 3
控		山口	1 4
控		松本	1 5
控		井上	1 6
控		大谷	1 7

ケース③ 臨時代走と指名打者

審判伝達手順

監督と選手交代確認

※電光掲示がある場合は打順表（紙）と電光掲示両方で確認する。

- 1) 4 番田中が頭部に死球
- 2) (一般DH) **3 番DH高橋** 臨時代走をお願いします

一般DH	大谷DH
DHは臨時代走者になる	DHは臨時代走者にならない

- 3) 4 番田中が頭部に死球
- 4) (大谷DH) **2 番鈴木** 臨時代走をお願いします。

本部アナウンスへ

- 1) (一般DH) **3 番高橋** 臨時代走
- 2) (大谷DH) **2 番鈴木** 臨時代走

Ump最終確認

(電光掲示がある場合)
電光掲示と打順表で確認
(電光掲示がない場合)
打順表と塁上の臨時代走（背番号）で確認

オーダー表（一般DH）

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	1 2
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	加藤	1

臨時代走

オーダー表（大谷DH）

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	加藤	1 2
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	加藤	1

臨時代走

ケース④ 自動的に投手交代になる場合

オーダー表 (試合開始時)

オーダー表 (4回守備時)

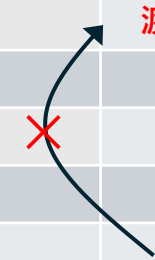
オーダー表 (7回守備時)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷	17
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控			

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷→山口	17→14
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷	17
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控	DH	山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控			

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH→7	山口	14
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺：負傷	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷	17
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控	DH	山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控			

DH消滅



- ・6番レフト渡辺負傷交代。
- ・DHを消滅させて山口をレフトの守備へ
- ・この場合、投手大谷は打順6番に入ることはできない。(5.11 (b) に抵触) によって、規則により投手交代が必要になる。

ケース⑤ 同じ役割に再度つくことはできない

オーダー表 (試合開始時)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷	17
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控			

オーダー表 (5回守備時)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷→井上	17→16
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控	P	井上	16
控			

オーダー表 (8回守備時)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	井上	16
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控		井上	16
控			

投手の井上を交代させたい場合、**再度大谷を投手につかせることはできない。**
 そのとき、**大谷を他の守備位置につかせることはできる (DH消滅)。**
 (野球審判員マニュアル第5版 指名打者 例題12)
 またその後、**大谷を投手に再度つかせることはできない。**
 (野球審判員マニュアル第5版 指名打者 例題13)

ケース⑥ 先発投手兼DHが打撃未了のまま投手交代した場合について

オーダー表 (試合開始時)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
	P	大谷→井上	17
控		吉田	10
控		山田	11
控		佐々木	13
控		山口	14
控		松本	15
控	P	井上	16
控			

【試合開始時】
後攻、投手兼任DHで試合開始。

【1回表】
先発投手大谷が投手井上に交代。
 ・大谷はDHとして継続はできる。打撃義務あり。
 ・監督が投手井上をDHにとっても規則上、入ることはできない。
 ・大谷選手を守備位置付けることはできる。必然的にDHが消滅する。
 ので1回裏の攻撃を完了しなくてよい。

